

日本機能水学会第 18 回学術大会 大会長挨拶

テーマ：明日の暮らしに役立つ機能水

大会長 錦 善則

(デノラ・ペルメレック株式会社 技術アドバイザー、学会誌担当役員)

第 18 回目を迎える本大会は、2012 年より参画いたしております日本医療・環境オゾン学会に大会運営の委嘱があり、その分科会であるオゾン水研究会がお引き受けし、同オゾン学会事務局のある大阪にて開催することになりました。

機能水の多くは電解プロセスにより製造されています。電気エネルギーを用いて化学物質を生産する電気分解（電解）プロセスが実用化に至ったのは約 150 年前であり、日本がリードする大規模イオン交換膜型電解セル(数 10 ton/h)を用いて、国内塩素生産量は 350 万トン/年に達していて、その中で次亜塩素酸ソーダ生産量は 4%程度に相当します。また、薬剤としての供給が困難な地域では、より小規模の数 100g/h から数 10kg/h 規模の次亜塩素酸ソーダのオンサイト製造装置が利用され、上記と同程度の生産量があります。

さて、本学会に関連する数 10g/h 規模の小型オンサイト装置は、恐らく上記次亜塩素酸ソーダ製造の 1%に満たない生産量であると推察されますが、まだまだ社会に貢献できる余地があるといえます。その理由として、国内の電力源が原子力から再生可能エネルギーへと移り、電力の自由化が進行する中、住宅・地域規模での自立・分散型社会の確立が期待されています。また、大きな自然災害をいくつも経験したことで、危機的な状況においても衛生的・健康的な暮らしを守るには、従来のライフラインでは満足すべきでないことに気づきました。そして、快適な暮らしのために、身近な暮らしに潜んでいる環境問題・衛生的課題に対して提案される新しい装置・習慣・価値が、円滑に受容される時代が来ていると感じるからです。

本大会テーマとして「明日の暮らしに役立つ機能水」を掲げました。このような変遷を迎える社会において、利便性・安全性を担保した小型の機能水装置は、有望なビジネス素材であると位置付けることができます。日本を代表するビジネスの中心地・大阪で、機能水の活躍する豊かな未来を見出せるのではないのでしょうか。

本大会におきましてもこれまで同様に、各種産業・医療分野において活躍されている会員各位より、有益かつ実践的な報告のあることを大いに期待しております。

錦 善則

日本機能水学会第 18 回学術大会案内

テーマ：明日の暮らしに貢献する機能水

大会長：錦 善則 先生（デノラ・ペルメレック株式会社）

会 期：2019 年 9 月 27～29 日（金～日）

27 日 市民公開講座（参加費無料）、28～29 日 学術セッション、27～29 日 展示

会 場：大阪工業大学梅田キャンパス OIT タワー（3 階）常翔ホール（576 席）

大阪市北区茶屋町 1-45 TEL: 06-6147-9015 <http://www.oit.ac.jp/institution/>

阪急梅田駅から徒歩 3 分、JR 大阪駅・地下鉄御堂筋線梅田駅から徒歩 5 分

参加費：会員 8,000 円（事前 6,000 円）、非会員 12,000 円（事前 10,000 円）、学生 3,000 円（事前 2,000 円）

* 事前締切は 8 月末日

技術交流会：9 月 28 日（土）、レストランテ翔 21（OIT タワー 21 階）

講演申込み：7 月 31 日（水）まで 発表は原則として年会費を納入している会員に限る。

主 催：日本機能水学会

共 催：日本医療・環境オゾン学会、機能水研究振興財団、

後 援：アルカリイオン整水器協議会、微酸性電解水協議会、日本口腔機能水学会、ウォーター研究会

協 賛：電気化学会電解科学技術委員会、韓国水学会、CKJ 国際機能水会議

組織委員会：錦 善則（委員長）、日本機能水学会理事長、歴代大会長ほか

準備委員長：中室克彦（摂南大学名誉教授）

プログラム委員会・実行委員会：日本機能水学会理事ほか

< 展示・広告（案） >

展示：基礎小間（システムパネル＋展示台） 10 社程度予定

広告：1 頁（A4 版）または半頁 ⇒ 機能水研究（講演要旨集に掲載）

費用：展示（1 ブース）：7 万円、広告のみ：5 万円（1 頁）、3 万円（半頁）

展示（1 ブース）＋広告（1 ページ）：10 万円

更新情報は、日本機能水学会 HP (<http://www.fwf.or.jp/gakkai.html>) に掲載いたします。

